

4. 緑の課題

緑の課題について、『みどりを「まもり、いかす」』『みどりを「つくり、つなぐ」』『みどりの「価値をたかめる」』『みどりを「はぐくむ」』の4つの視点から整理しました。

	課題の視点	緑の課題
みどりを「まもり、いかす」	安城の歴史風土を物語る大切な景観や緑の保全と継承	<ul style="list-style-type: none"> ●明治用水緑道や東海道のマツ並木、由緒ある社寺林など、次世代に伝えるべき大切な景観や緑の保全と継承に努めることが必要 ●寿命を迎えた桜を再生するなど、市民に親しまれる桜の風景を保全していくことが必要 ●豊かさや心地よさを実感できる景観や緑の空間を維持していくことが必要
	日本デンマークとしての郷の風景づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●古くから日本デンマークと呼ばれてきた本市の代表的な田園風景を次世代に伝えるため、農地の緑の保全が必要
みどりを「つくり、つなぐ」	多様なニーズに対応した広域的な新たな緑の拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の健康への取り組みなど多様なニーズに対応するとともに、学習や体験の場となる広域的な緑の拠点形成を検討することが必要
	日常的なニーズに対応した身近な公園や緑の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ●既存の身近な公園や緑は、子供の健やかな成長を育む場や市民の健康ニーズに対応するため、広場や遊具などの公園施設の更新・充実を図ることが必要 ●新たな高木の植栽などにより緑の量を創出することが必要
	広域的な緑の保全と水と緑の軸によるネットワーク化	<ul style="list-style-type: none"> ●油ヶ淵などの水辺の身近な生物の生息環境を保全することが必要 ●猿渡川・鹿乗川・半場川などの中小河川や、明治用水緑道を活かし、各種健康に関する活動が展開される健幸交流軸の形成が必要
みどりの「価値をたかめる」	地球温暖化やヒートアイランド現象、災害による影響拡大を抑制する既存の緑の保全と新たな緑の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂吸収源や都市環境の改善、延焼防止帯などとして機能する、価値のある緑の保全と拡大に努めることが必要
	災害時の防災活動拠点や避難場所としての公園の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●地震などの災害時の防災活動拠点や広域または一時避難場所として、新たな緑地の整備や既存の公園の防災機能の向上が必要
	豊かな生活環境の創出に向けた都市内農地の保全・活用や民有地の緑化	<ul style="list-style-type: none"> ●農地と調和した良好な都市環境の形成のため、都市内農地の保全や活用が必要 ●市街地における良好な生活環境の形成に向け、個人宅や事業所などの民有地の緑化や空地等の活用が必要
みどりを「はぐくむ」	市民や事業者との官民協働による緑の育成と維持管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●アダプトプログラムなどの官民協働による維持管理のさらなる充実や、民間事業者との協働による緑の育成などに努めることが必要
	市民や事業者とのきずなを通して、緑を育み、広げる機会の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●市民や事業者との協働による緑の普及啓発活動や、既存の緑の保全とさらなる緑の創出など、緑を通してきずなを深め、ともに育む機会を拡大することが必要